クレーンの腕前 神戸港で磨く

国内唯一 練習専用施設

各地の港湾で、コンテナの積み降ろしに欠かせないガントリークレーン。その操縦技術を実践的に学ぶため、日本で唯一、国内主要港と同規模の練習専用クレーンを備えた施設が、神戸・ポートアイランドにある。「港湾の花形」とされる高度な技術を習得しようと、全国から受講者が訪れている。（鈴木雅之）

全国唯一の練習用ガントリークレーン。本物の港で訓練を積むことができる＝いずれも神戸市中央区港島9、港湾技能研修センター

NEXTに動画

地上36メートルに訓練席 現場同様の操作、集中指導

船上に据え付けられるデッキクレーン。鉄の囲いで船を再現している

7月中旬、神戸港の一角にある「港湾技能研修センター」（神戸市中央区港島9）で、クレーン操縦の訓練が行われていた。

地上36メートルの高さにある運転台。博多港でコンテナ荷役に携わる中村颯さん(26)＝福岡県粕屋町＝が、運転席から眼下のコンテナをのぞき込みながら、ハンドルを慎重に動かす。

コンテナをつり上げ、目的の場所に正確に移動させる訓練で、ヤードと船倉に見立てた枠組みとの間で出し入れを繰り返していく。この施設では、実際に船を着岸させて練習することも可能だ。

「もう一回押し込んで、しっかりつかんでみよう」。中村さんの隣で、操作を指示する指導官の声が響く。通常、座席は一つしかないが、練習用に特注したこのクレーンには3席ある。指導官にそばで見てもらいながらアドバイスを受けることができるのは、日本中でこの1台のみだ。

「いきなり現場でなく、こうして練習することができて良かった」。中村さんも安堵の表情を浮かべた。

近年、港湾荷役で利用が広がるリーチスタッカーの練習もできる

◇

同センターは、港湾労働安定協会(東京)が1988年、各種クレーンの技術などを学べる施設として愛知県豊橋市に設けたのが始まり。設備の老朽化やコンテナ船の大型化に対応した設備の必要性などから2016年、移転先に立候補した複数の自治体から、神戸が選ばれた。

決め手になったのは、神戸空港からのアクセスの良さや、国内主要港として培われた技術力の高い人材の多さだ。17年は神戸港の開港150年の節目と重なり、「神戸港から、日本の港湾技術を支えたい」とのアピールも奏功したという。19年から稼働している。

敷地は、移転前の2倍にあたる約6万平方メートルに拡大した。ガントリークレーンに加え、コンテナをつかんだまま360度回転できる車両「リーチスタッカー」などの訓練プログラムもある。遠方からの参加者向けに、宿泊フロアも設けている。

同センターによると、港湾業界でも若手人材が不足し、荷役技術の継承が課題になっている。特にガントリークレーンの操縦は、荷役のない空き時間や休憩時間を使って練習するケースが多いのが現状だ。近年は過重労働を防ぐため、練習機会の確保が難しくなっているという。

こうした中、短期間で集中的に学べる同センターのニーズは高まっており、受講者数は増加傾向にある。24年度は約2200人が利用を予定しており、同センター企画課の黒田香織さんは「神戸から日本の港湾の人材育成を担っていきたい」と話している。

「海キリン」の愛称でも知られるガントリークレーン

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。